

平成30年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 准教授

氏名： 金 恵京

研究課題	無差別テロ防止のための国際法の法実現	
報告の概要	研究目的及び研究概要	<p>本研究は現在の国際社会における共通の課題となっているテロリズム、中でも無差別性の高いテロリズムに対して、これまで社会が構築してきた人権・自由・民主主義といった価値観を基盤として抗していく方法を検討したものである。そして、その手段として最も適したものが各国が締結後に国内法にも適用される国際法を用いた対応となる。</p> <p>具体的な内容としては、日本、朝鮮半島をフィールドとして、かつて無差別テロを起こし、近年においても化学テロを起こした疑惑が強い北朝鮮と対峙する周辺国の法整備、政治について検証を行っている。ただし、上掲のように法による対応を基軸としていることから、本研究においては20世紀に確立した国際法の指針の一つである「戦争を放棄し、紛争は平和的手段により解決する」との立場をとり、力を用いてテロを抑え込むことを第一には考えない。各国の人権等に基づいた行動、法実現などがいかんにしてテロの防止に寄与するかを検討していく。</p>
	研究成果	<p>北東アジア全体を俯瞰する中で、「声を抑えられた」市民同士の連携により、民主主義や人権を基盤とした共通認識を広げることで平和的に状況を改善し、テロにも対処可能との視点を構築した。その方針を基盤として、佐藤優氏との対談を行い、『北東アジア市民圏構想』として刊行した。</p> <p>韓国をフィールドとして、2016年以降の韓国の市民によるデモの意義を「建国以降の経緯」および「戦後の国際法の進展」との両面から検証した。それにより、韓国の民主主義を憲法が保証していく状況は各国に示唆を与えるものと捉え、国際人権法学会にて発表を行った。</p> <p>日本においては、文在寅政権に対して、「反日」というステレオタイプで捉えられる傾向があることに対して、多面的に状況を捉える必要性を指摘した。北朝鮮との安全保障上の課題を外交的に改善した成果を『インテリジェンスレポート』にて発表し、歴史問題に対する姿勢は100年単位の複合性があることを指摘した内容を『Voice』にて発表した。</p>
研究業績	<p>・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数</p>	<p>①論文：金恵京「国家テロの解決策としての外交－朝鮮半島における政策転換を事例として」『インテリジェンス・レポート』(査読無し)第125号、2019年2月、77-86頁。</p> <p>②著書：金恵京・佐藤優『北東アジア市民圏構想』第三文明社、2018年10月。</p>
	<p>・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所</p>	<p>①学会発表：金恵京「韓国の民主主義を活性化させた自由権と憲法」国際人権法学会、発表日：2018年11月24日、発表場所：名城大学天白キャンパス</p>
	<p>・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等</p>	<p>①雑誌投稿：金恵京「『日韓2019年問題』への向き合い方－歴史問題、民主化、愛国心が三位一体となった韓国のリベラル」『Voice』第491号、2018年10月、166-173頁。</p> <p>②講演会：金恵京「日本・韓国 和解への道」在日本大韓国民団婦人会大研修会、2018年6月13日</p> <p>③講演会：金恵京「外国人居住のリスクをチャンスに」日管協フォーラム2018(主催：公益財団法人日本賃貸住宅管理協会)、2018年11月13日</p>